

都市再生整備計画（鳥取駅周辺地区（第2期））事後評価 概要版

① 都市再生整備計画事業とは？

都市再生整備計画事業は、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るものです。

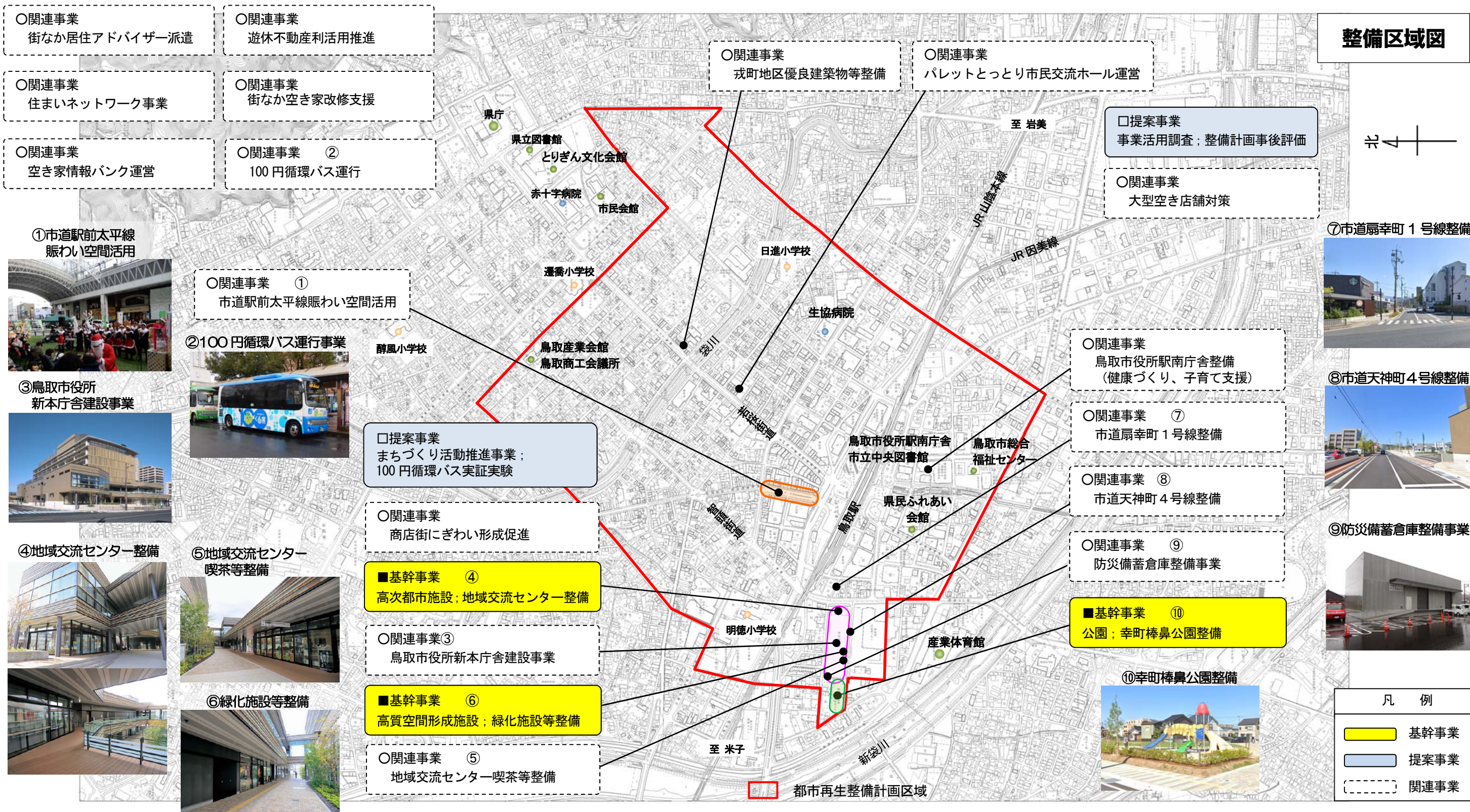
事業の最終年度には事後評価を行います。



② 事後評価の目的・内容

評価の目的 事後評価は、都市再生整備計画で設定した目標の達成状況とその効果発現要因等を整理して、今後のまちづくりに活かすための作業であり、事業の成果を住民のみなさんに分かりやすく説明することを目的とします。

評価の内容 ①まちづくりの目標の達成状況等の確認
②課題の変化の整理
③今後のまちづくり方策の検討



都市再生整備計画（鳥取駅周辺地区（第2期））事後評価 概要版

③ 計画段階に設定したまちづくりの課題と目標

地区の課題	①にぎわいと活気のある都心核形成の推進 ②鳥取駅周辺への来街者の増加や回遊性の向上、居住者の増加 ③公共施設の計画的な更新や機能集約、効率的な維持管理 ④誰もが行ってみたいとなる、新たな交流や価値の創造 ⑤安全・安心な市民生活を守る全市的な防災体制の強化 ⑥緑化施策の推進や災害発生時の活動拠点としての公園整備や機能強化
-------	---



地区の目標	大目標：まちなかの拠点を活かし、魅力的で賑わいと活気があり、安全・安心に暮らしていける都心核形成 目標1：鳥取駅周辺の拠点性の強化による賑わい創出 目標2：災害から市民の生命と財産を守る防災拠点の形成 目標3：安全・安心、快適性の向上による都心回帰の推進
-------	--

④ 事後評価－1 まちづくりの目標達成状況等の確認

目標を定量的に評価するための指標	従前値	目標値	事後評価	達成状況	効果発現要因
指標1 歩行者交通量（平日）	H27 52,694 人	R2 55,300 人	R1 44,364 人	×	今回の調査日は悪天候（雨、平均気温が11℃）であったことから人出が大幅に減少したと推定される。また、本庁舎の移転に伴い駅北側の交通量が減少したものと推定される。
指標2 災害時の防災・避難体制満足度	H26 40.8%	R1 45%	R1 42%	△	目標に達しなかったものの、防災拠点となる市役所本庁舎や幸町棒鼻公園の整備により、災害時の防災・避難体制の満足度の向上に貢献している。
指標3 区域内人口	H27 10,641 人	R2 11,000 人	R1 10,495 人	×	少子化の影響や世帯規模の縮小から地区内の居住人口は減少しているが、市全体の減少率に比べ比較的小さいことから、一定の評価はできる。

当初は設定していなかった指標による効果発現状況

目標を定量的に評価するための指標	従前値	目標値	事後評価	達成状況	効果発現要因
その他の指標1 歩行者交通量（休日）	H27 44,477 人	R1 46,700 人	R1 52,921 人	○	100円循環バスの運行経路の変更や歩道整備などによる歩行環境の改善、商店街にぎわい形成促進事業等が相互に作用し、歩行者交通量の増加に貢献している。
その他の指標2 区域内の増加世帯数	H27 0 世帯	R1 プラス 世帯	R1 38 世帯	○	中心市街地の居住に関する情報提供等により、居住に対する関心が高まり、居住世帯は必ずしも減少していない。

⑤ 事後評価－2 まちづくりの課題の変化

事業前の課題	達成されたこと	残された未解決の課題
市の玄関口・市街地の核として、にぎわいと活気のある都心核形成の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流センターの整備やにぎわい空間が創出されたこと、その他関連事業の実施などから、鳥取駅周辺は市街地の核となっている。 	—
1期計画の来街者増加、回遊性向上、居住者増加	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取駅から新本庁舎への100円循環バスの運行経路の変更や新本庁舎周りの市道整備により歩行者動線が確保されたことなどから、来街者の増加や居住者の利便性が高まるとともに、回遊性の向上につながった。 中心市街地の居住に関する情報提供等により、居住に対する関心が高まり、居住世帯が増加していると推定される。 	—
公共施設の計画的な更新や機能集約、効率的な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 新本庁舎の建設や地域交流センターの整備により、市民サービス機能や地域交流機能が強化された。 保健所と保健センターの機能を一体化した駅南庁舎は、健康づくりと子育て支援の総合拠点となっている。 	—
全市的な防災体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 新本庁舎は災害対策本部を中心とし災害時に迅速かつ継続的に市民の生活を守る拠点として防災体制が強化された。 特に、免震構造、敷地の嵩上げ、電源や空調機械の屋上配置、多目的スペース、備蓄倉庫など、災害時においても事業継続可能な機能を確保している。 	—
緑化施策推進、災害活動拠点など、計画的な公園整備や機能強化	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に避難場所となる幸町棒鼻公園や災害活動拠点となる駐車場、緑が身近に感じられ歩いて楽しい屋外のオープンスペースなどが確保された。 	—



⑥ 事後評価－3 今後のまちづくり方策

効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
市民交流施設の活用促進	<ul style="list-style-type: none"> パレットとっとり、麒麟スクエアを拠点として活動する市民団体の主体的な取り組みの支援をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズの把握 各種イベントの通年開催と情報発信
回遊性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 賑わいを創出する各種イベントを今後も継続的に実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスペースを活用した社会実験 継続的なイベント活動支援と情報発信
定住化の促進	<ul style="list-style-type: none"> 居住人口の減少を抑制し、幅広い世代・多様な居住の提供を図るため、空き家や未利用地の利用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存ストック活用居住促進地域連携事業（※） UJターン促進事業（※）
来街者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 新規開業の促進や既存個店の経営強化による魅力の創出、公共交通機関やまち歩き等と連携した情報発信により、来街者の増加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> まちなか観光促進事業（※） まち歩き推進事業（※）
地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 防災学習や訓を通じて、情報取得方法や避難経路の安全確認など、安全安心を自ら感じられるよう市民の防災意識の高揚を促す。また、消防ポンプや格納庫の整備、各種防災組織との連携を図り、防災体制の充実・強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災会の支援 防災リーダー育成支援 防災教育、防災訓練等の啓発事業

（※）第3期鳥取市中心市街地活性化基本計画の掲載事業

改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	—	—